



## 株主の皆様へ

第164期 中間報告書  
2016年4月1日～2016年9月30日

イビデン株式会社

証券コード 4062



代表取締役社長

竹中 裕紀

株主の皆様におかれましては、平素よりイビデン株式会社並びにイビデングループ各社に格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

ここに第164期中間期(2016年4月1日から2016年9月30日まで)の事業をご報告するにあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

当社の電子事業を取り巻く市場環境は、パソコン市場の減速やハイエンドスマートフォン市場の成長鈍化等による企業間競争の一段の激化に加え、ファンアウトウエハーレベルパッケージ(FO-WLP)の上市によるCSP事業の売上減少により、この下期も厳しい状況が継続する見通しです。このような状況を受けまして、当社におきましては、当期に事業構造改革費用として、電子事業において固定資産の減損損失など500億円程度の特別損失を計上する見通しとなり、まずは当中間期におきま

して、固定資産の減損処理など425億円の特別損失を計上いたしました。今後、年内を目処に事業計画・資産内容の精査を更に進め、来年度以降の黒字化に向けた準備を整えてまいります。併せて、電子事業を再度成長軌道に乗せるため、従来から当社が強みを持つ最先端分野におけるシェア拡大に加えまして、新規顧客の開拓やIoT、車載、データセンターといった新分野への拡大に継続して取り組むことで、来

年度以降の受注回復に努めてまいります。

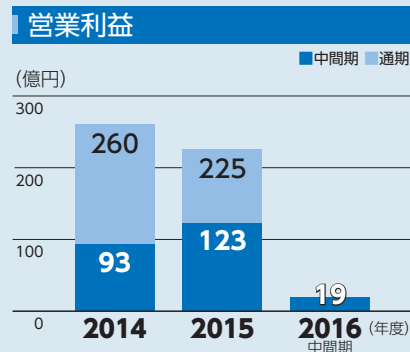
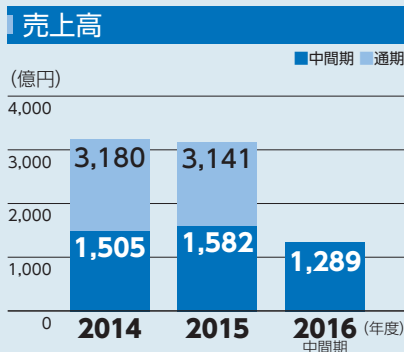
また、セラミック事業におきましては、欧州を始めとする世界的な排ガス規制強化の流れを受け、顧客の製品需要も次世代仕様(規制強化に対応した高機能な製品)の割合が増加しつつあります。こうした事業環境・製品需要の変化を受け、セラミック事業においても当期、事業構造改革費用として、生産体制の更新及び最適生産体制の再構築費用など50億円程度の特別損失を計上する見通しです。

以上の結果、平成29年3月期通期連結業績予想を売上高2,550億円、営業利益1億円、経常損失60億円、親会社株主に帰属する当期純損失635億円にて修正開示いたしました。株主の皆様、多大なご心配をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。

さて、当中間期の事業結果についてですが、まず、電子事業におきましては、先に述べた市場環境変化に伴う企業間競争の激

## 中間連結決算 ハイライト

Financial Highlights



化及びFO-WLPの上市によるCSP事業の売上減少により、大変厳しい結果となりました。

セラミック事業におきましては、世界の自動車市場が堅調に推移したことを受け、売上数量は順調に推移する一方で、円高や製品構成変化に伴う売価ダウンの影響等により、売上・営業利益共に、前年同期比で減収減益となりました。今後、収益力の回復に向け、生産体制の最適化を含む事業再編成に加え、排気系分野におきまして、DPF・AFP・SCRの3事業のシナジーによる顧客への提案力強化を進めることで、事業競争力を強化してまいります。

その他事業におきましては、国内グループ会社の特色を持った製品による事業拡大と、電力事業において、当社全ての水力発電所が再生可能エネルギーの固定価格買取制度(FIT)に対応したことにより、前年同期比で増収増益となりました。今号では、当社の安定的な収益源としての確かな位置付けを担う電力事業をご紹介します特集記事を7、8ページに掲載いたしました。

で、ぜひご参照ください。

このように、当社を取り巻く事業環境は、大変厳しくかつ不透明ではありますが、現中期経営計画を継続し、全社員一丸となって真の競争力強化に取り組むことで、この危機を乗り越り、中期経営計画の最終年度である2017年度には業績を回復させ、次の100年に向け、事業を再度安定した成長軌道に乗せてまいります。

最後になりましたが、当社の株主の皆様への利益還元方針につきましては、大変厳しい業績見通しではありますが、安定した配当の継続を基本方針として、2016年度(平成28年度)の中間配当は、昨年度と同額の15円とさせていただきます。2016年度(平成28年度)の期末配当予想額につきましても、来年度の業績回復を前提に、昨年度と同額の20円とさせていただきます。

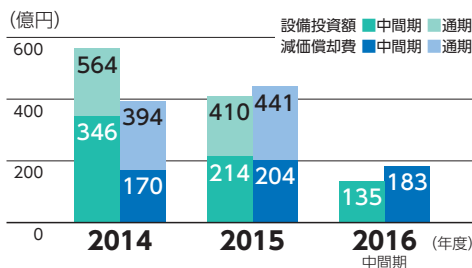
株主の皆様におかれましては、今後も当社グループへの変わらないご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 設備投資の状況

135億70百万円

当中間期における主な設備投資は以下のとおりです。

電子関連	国内	24 億円
	海外	50 億円
セラミック関連	国内	4 億円
	海外	35 億円



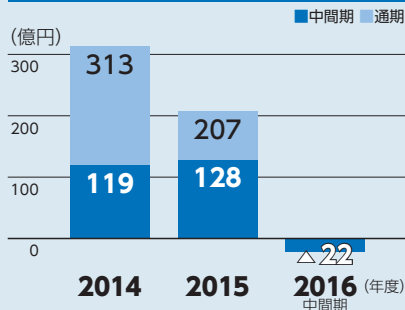
## 中間配当について

平成28年11月1日開催の取締役会において、平成28年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主又は登録株式質権者に対して行う中間配当金の支払につき、次のとおり決議いたしました。

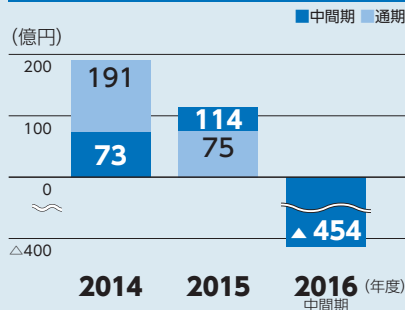
中間配当金 1株につき 15円

支払請求権の効力発生日並びに支払開始日  
平成28年11月24日

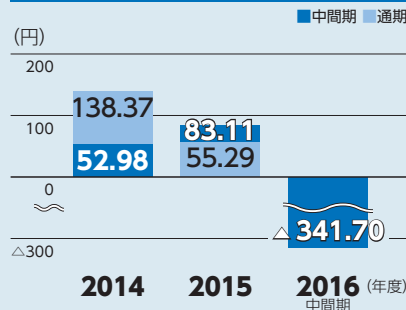
## 経常利益



## 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



## 1株当たり四半期(当期)純利益

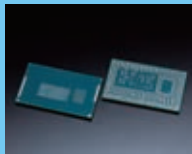


## 電子事業



### 主な製品用途

- パッケージ基板  
(パソコン・サーバー向け、携帯端末向け、情報家電向け)
- プリント配線板  
(携帯電子機器向け)



パソコン用  
パッケージ基板 (PKG)



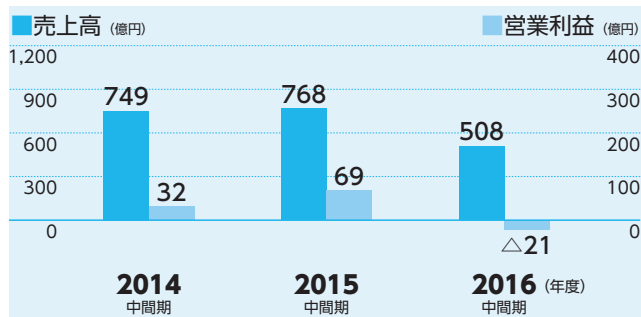
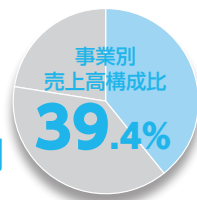
スマートフォン・タブレット用  
パッケージ基板 (CSP)



スマートフォン・タブレット用  
マザーボード・プリント配線板  
(PWB)

売上高 **508億円**  
(前年同期比33.9%減)

営業利益 **△21億45百万円**



電子事業の市場は、パソコン市場が引き続き低迷したことに加え、スマートフォン・タブレット市場の成長減速と、企業間競争の激化及びファンアウトウエハーレベルパッケージ (FO-WLP) の上市によるCSP事業の売上減少により、電子事業の売上高は508億円となり、前年同期に比べ33.9%減少しました。同事業の営業損失は21億45百万円(前年同期は69億67百万円の営業利益)となりました。

## セラミック事業



### 主な製品用途

- ディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF)
- 触媒担体保持・シール材 (AFP)
- NO<sub>x</sub> 浄化用触媒担体 (SCR)
- 特殊炭素製品 (FGM)  
(半導体製造装置向け、新エネルギー関連向け)
- 高温断熱ウール
- ファインセラミックス製品



ディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF)



触媒担体保持・シール材 (AFP)



特殊炭素製品 (FGM)  
(シリコン製造装置用部材)

売上高

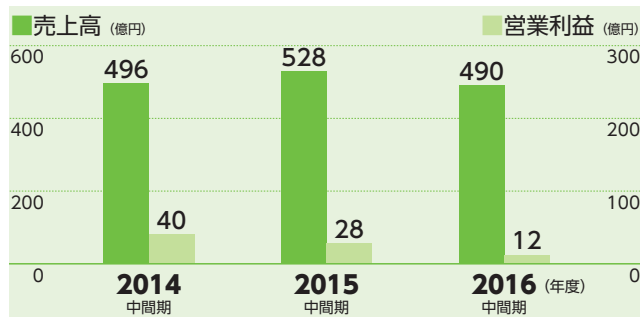
490億95百万円  
(前年同期比7.1%減)

営業利益

12億73百万円

事業別  
売上高構成比

38.1%



ディーゼル・パティキュレート・フィルター (DPF) 及び触媒担体保持・シール材 (AFP) は、自動車市場が堅調に推移したことにより受注数量は増加しましたが、円高及び商品構成の変化により、両事業合計の売上高は、前年同期に比べ減少しました。

NO<sub>x</sub>浄化用触媒担体 (SCR) は、エネルギー関連向けの定置式用途製品が堅調に推移したものの、円高及びその他用途向け製品の販売が低調に推移したことにより、前年同期に比べて売上高は減少しました。

特殊炭素製品 (FGM) は、引き続き厳しい市場環境のなか、拡販に努めたことにより、前年同期並みの売上高を確保しました。

以上により、セラミック事業の売上高は490億95百万円となり、前年同期に比べ7.1%減少しました。同事業の営業利益は、主力であるDPFの商品構成の変化及び円高の影響等により、12億73百万円となり、前年同期に比べ55.6%減少しました。

## その他事業



### 主な事業内容

- メラミン化粧板 ▪ 住宅設備機器
- 法面工事部門 ▪ 造園工事部門
- 合成樹脂加工部門
- 石油製品販売部門



抗ウイルスメラミン不燃化粧板  
リテクトウィルヘル



GT フレーム工法  
(法面工事)

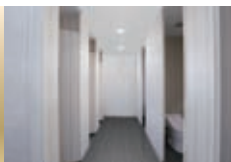


医療向けソフトウェア

### トピックス

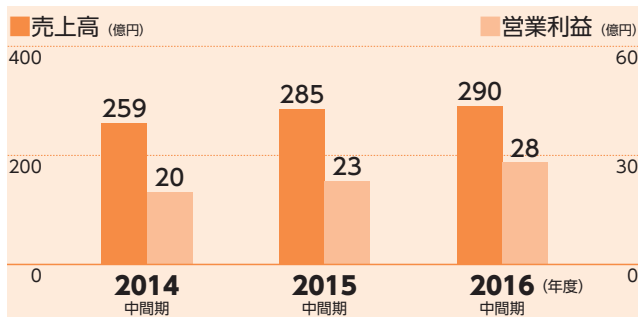
#### イビケン(株) 2016年グッドデザイン賞受賞

トイレブース「Monde Booth(モンドブース)」



**売上高** 290億76百万円  
(前年同期比2.0%増)

**営業利益** 28億53百万円



**化粧板関連販売部門**は、引き続き住宅向けキッチン加工扉の市場回復力が乏しかったものの、トイレブース向けメラミン化粧板及び不燃化粧板の拡販に努め、売上高は前年同期並みとなりました。

**住宅設備機器販売部門**は、コンポーネント住宅の上棟数が増加したものの、賃貸住宅関係の販売減少により、前年同期に比べ売上高は減少しました。

**法面工事部門**は、上期完成予定の工事が下期にずれたことにより、前年同期に比べ売上高は減少しました。

**造園工事部門**は、前年度からの繰越工事の減少により、前年同期に比べ売上高は減少しました。

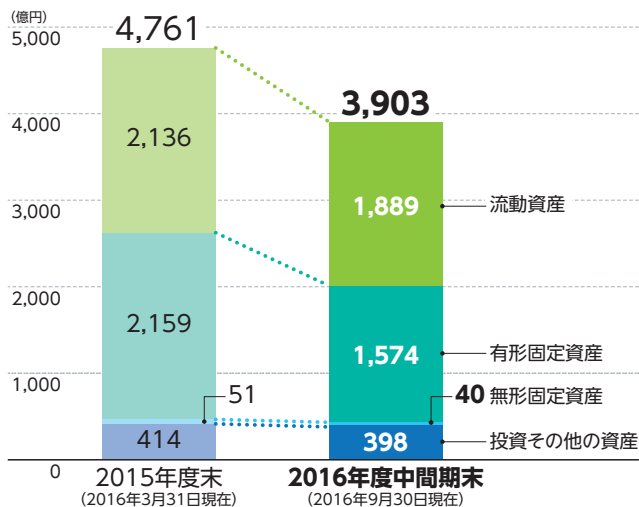
**石油製品販売部門**は、販売数量は増加しましたが、販売価格の下落により前年同期に比べ売上高は減少しました。

**合成樹脂加工部門**は、スマートフォン市場の停滞や熊本地震による自動車市場への影響があったものの、一部新車種向けが好調に推移したことにより、前年同期に比べ売上高は増加しました。

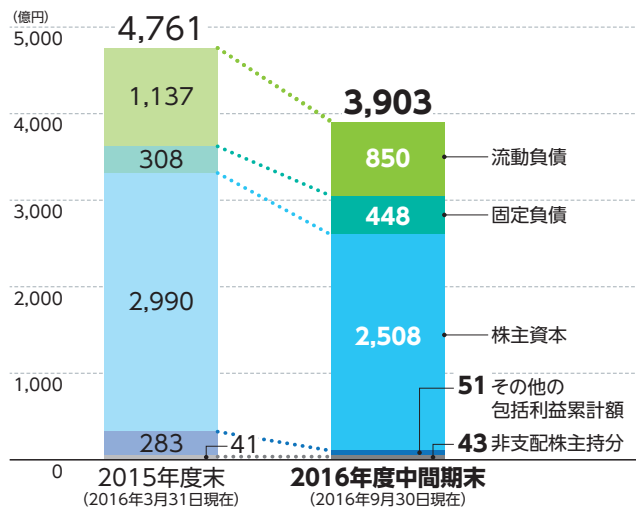
以上により、その他事業の売上高は290億76百万円となり、前年同期に比べ2.0%増加しました。同事業の営業利益は、東横山水力発電所の改修工事完了に伴う電力事業の増益もあったことにより28億53百万円となり、前年同期に比べ20.0%増加しました。

財務の状況

資産の部

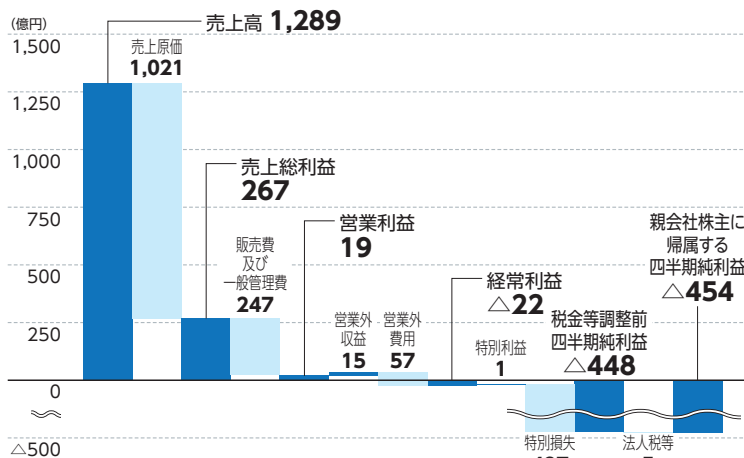


負債の部

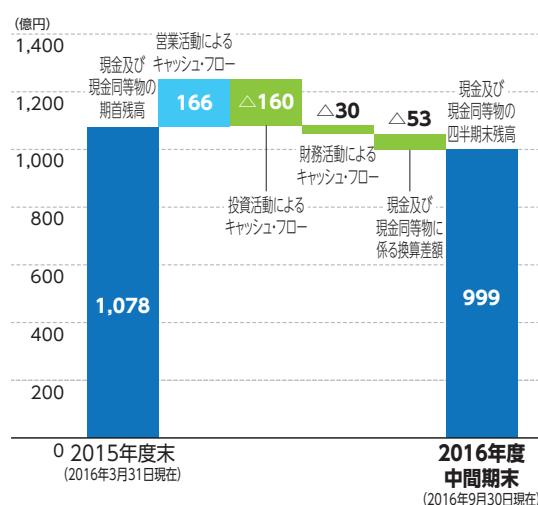


損益の状況

2016年4月1日～2016年9月30日



キャッシュ・フローの状況



# 安定した収益源としての電力事業 — 一次の100年に向けて —

今回の特集では、再生可能エネルギーの固定価格買取制度(以下、「FIT」)による電力販売で、安定収益を稼ぐ体制の整った[その他事業]の中の「電力事業」を取り上げます。

事業としてはもちろんのこと、当社における水力発電の存在意義、ステークホルダーの皆様や環境との関係性、エネルギー源の多角化といった観点も踏まえてご紹介します。

水源の夜叉ヶ池

## 東横山水力発電所リニューアル

2016年2月に、中長期の安定的な収益への貢献を目的に、FIT対応に向けた東横山水力発電所の改修工事が完了しました。当発電所は、当社の水力発電所の中で最も古く、最大出力14,600kW(年間発電量は42,000世帯の年間使用量に相当)を誇っています。

一連の工事により、川上・広瀬・東横山の各水力発電所で発電された電力を集約し、社外に送電するための鉄塔や電気室などが新設され、発電電力を全て外部に販売できる体制が整いました。また、水車発電機の更新、ずい道(水路トンネル)、水圧鉄管の補修などにより発電効率も向上し、今後永きに亘り当社電力事業を支える心強い存在となりました。



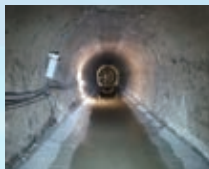
東横山水力発電所



竣工式には役員や発電所の関係者が一堂に会しました



水車発電機



ずい道



水圧鉄管



電気室

## 水力発電に流れる イビデンのDNA

当社の歴史は、地元・大垣の振興を図るため、揖斐川の上流に水力発電所を作り、その電力供給により産業を誘致しようという構想から始まります。1912年に電力供給の「揖斐川電力株式会社」として発足し、その後、時代の変化とともに自家用発電を利用した電気化学工業に進出しました。以来、カーバイドやカーボン、建材、セラミック製品、電子製品の事業を拡げ、地域とともに発展を遂げてきました。現在も三つの水力発電所を所有し、創業以来100年以上に亘り電力の供給を続け事業を支えています。

創業時の東横山水力発電所





## イビデン発電所の配置



## イビデンの 多様な自家発電エネルギー

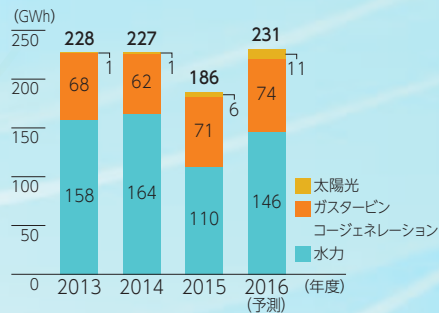
当社は、水力、ガスタービンコージェネレーション<sup>(注)</sup>、太陽光など多様なエネルギー源で、自家発電におけるクリーンエネルギー化と、生産活動における省エネルギー活動を実施し、温室効果ガスの直接排出削減に取り組んでいます。

(注) 電気と蒸気などの複数のエネルギーを取り出せる設備

ガスタービンコージェネレーション



## イビデングループの年間発電量



## 2016年2月竣工

### 水上フロート式太陽光発電所

当社グループ会社のイビデンエンジニアリング株式会社は、イビデン株式会社衣浦事業場貯木場に自社開発のフロート(特許申請中)を使用した日本最大級(竣工時)の水上フロート式太陽光発電所を建設し、2016年2月より送電開始しました。



水上フロート式は、屋根や地上設置型の発電設備に比べ、5%程度の発電量の増加が期待できます。

## 次の100年に向けた森づくり

### 「イビデンの森」10周年へ

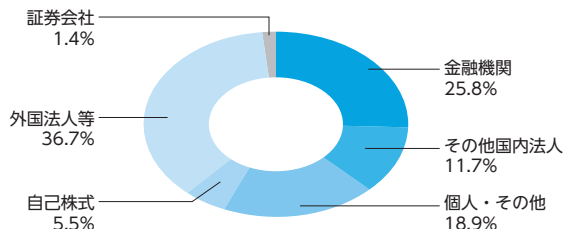
当社水力発電事業ゆかりの地、揖斐川町で2008年からCO<sub>2</sub>削減、森林保全といった地球環境の保護や地域貢献を目的に、森林再生活動を実施しています。イビデングループ社員とその家族、OBやOG、地域の皆様との活動で来年10周年を迎えます。当社はCSR(企業の社会的責任)を経営の基本においており、この活動が当社事業の安定的・持続的な成長につながるものと考え大切にしています。



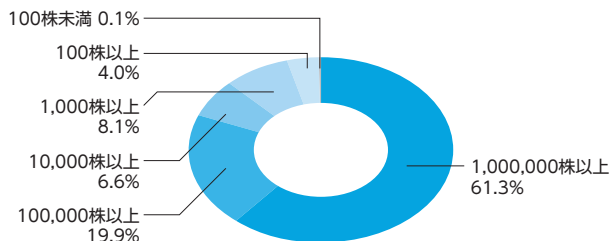
### 株式の状況

発行可能株式総数・・・230,000,000株  
 発行済株式総数・・・140,860,557株  
 株主数・・・31,501名

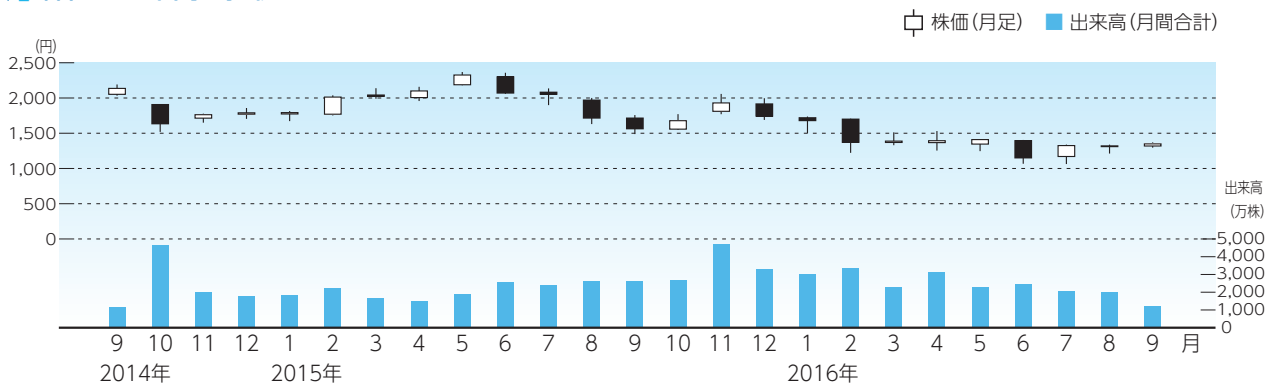
### 所有者別株式分布状況



### 株数別株式分布状況



### 株価／出来高の推移



### 大株主(上位10名)(※)

株主名	持株数(千株)
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	9,235
株式会社豊田自動織機	6,221
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リユーエス タックス エグゼンプテド ペンション ファンズ	5,530
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,128
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,278
株式会社十六銀行	4,130
株式会社大垣共立銀行	4,120
イビデン協力会社持株会	3,482
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) アカウント ノントリーデー	3,280
イビデン社員持株会	2,739

※上記(大株主)のほか、当社が保有している自己株式7,779千株があります。

## 会社概要

創 立：1912年(大正元年)11月25日  
 資 本 金：64,152百万円  
 従業員数：3,588名(連結14,032名)

## 事業場

大垣事業場、大垣中央事業場、青柳事業場、河間事業場、  
 大垣北事業場、神戸事業場(以上岐阜県)  
 衣浦事業場(愛知県)

## 主な営業所

本 店：〒503-8604 岐阜県大垣市神田町2-1  
 ☎(0584)81-3111(代)  
 東京支店：〒100-6329 東京都千代田区丸の内2-4-1  
 (丸の内ビルディング29階)  
 ☎(03)3213-7322(代)

## 会計監査人

新日本有限責任監査法人

## 役 員

### 取締役

代表取締役：竹中 裕紀  
 代表取締役：青木 武志  
 代表取締役：西田 剛  
 代表取締役：児玉 幸三  
 取締役：高木 隆行  
 取締役：生田 斉彦  
 取締役：伊藤宗太郎  
 取締役：河島 浩二  
 取締役：大野 一茂  
 取締役(社外)：齋藤 昇三  
 取締役(社外)：山口 千秋

### 監査役

常勤監査役：阪下 敬一  
 常勤監査役：桑山 洋一  
 監査役(社外)：加藤 文夫  
 監査役(社外)：堀江 正樹  
 補欠監査役(社外)：小森 正悟

### 執行役員

社 長：竹中 裕紀  
 副社長：青木 武志  
 副社長：西田 剛  
 副社長：児玉 幸三  
 専務執行役員：高木 隆行  
 専務執行役員：生田 斉彦  
 常務執行役員：伊藤宗太郎  
 常務執行役員：河島 浩二  
 執行役員：大野 一茂  
 執行役員：久保 修一  
 執行役員：遠藤 本鎮  
 執行役員：平松 靖二

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
公告の方法	当社のホームページに掲載いたします。 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。 公告掲載URL <a href="http://www.ibiden.co.jp/">http://www.ibiden.co.jp/</a>
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒460-8685 名古屋市中区栄三丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎0120-782-031
同 取 次 窓 口	三井住友信託銀行株式会社 全国本店
上 場 取 引 所	東京、名古屋各証券取引所 第1部

### ●未払配当金の支払いに関するお申出先

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申出先

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座を開設された株主様は、特別口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

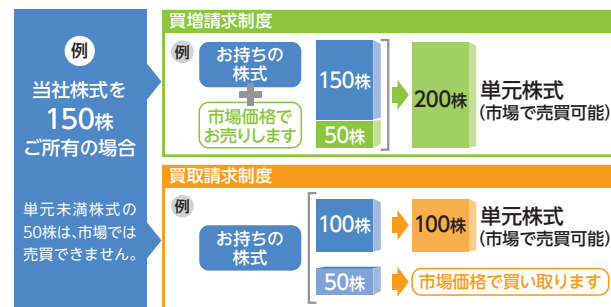
### ●「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、配当支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は、大切に保管ください。

## 単元未満株式(1株～99株)買増・買取請求のご案内

当社では、単元未満株式をご所有される株主様が、単元株式(100株)にまとめるため、当社に対して1単元の株式の数に不足する数の当社株式の買増請求を行うことができる「**単元未満株式買増請求制度**」、または当社に対して単元未満株式の買取請求を行うことができる「**単元未満株式買取請求制度**」のいずれかの制度を選択してご利用していただくことができます。



### ●お手続き方法

特別口座で単元未満株式をご所有の株主様

特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

☎ 0120-782-031

証券会社等で単元未満株式をご所有の株主様

お取引のある証券会社等にお申出ください。

※単元未満株式の買増・買取手数料は無料となっておりますが、証券会社等を通じてお取引された場合、別途手数料が徴収されることがございます。詳細につきましては、お取引のある証券会社等にご確認願います。

### ホームページのご案内

当社ホームページでは、企業情報、投資家情報、社会・環境活動(CSR)など、様々な情報を掲載しております。特に株主・投資家の皆様向けには、社長メッセージ、決算短信、主力製品の紹介なども掲載しております。ぜひご覧ください。

<http://www.ibiden.co.jp/>

